



横浜市立恩田小学校 学校だより 3月号

発行 平成30年 3月1日



子どもに育てたい三つの資質・能力

校長 古屋 澄人

25日に閉幕した平昌オリンピックでは、フィギュアスケートの羽生結弦選手が2大会連続の金メダル獲得、スピードスケートの小平奈緒選手や高木菜那選手が初めての金メダル獲得など、多くの日本人選手の活躍に胸が躍り日本にとっては歴史的な大会となりました。3月9日から始まるパラリンピックにも大いに注目したいと思います。

さて、平成29年に平成32年度から実施される新学習指導要領が告知されました。平成30年度からは移行期間に入ります。平成30・31年度は、5・6年生の外国語活動が15時間増加され、年間50時間となります。(3・4年生についても15時間の外国語活動が行われますが、横浜ではすでに1～4年生までYICAとして実施しているので変更はありません。)

今回の新学習指導要領の改訂で実現を目指すことは、「主体的に学び続けて自らの能力を引き出し、自分なりに試行錯誤したり、多様な他者と協働したりして、新たな価値を生み出していくこと」だと述べています。そして、新学習指導要領が目指す子どもの姿としては、内容の習得を重視してきた教育活動から知識や技能を活用して問題解決を成し遂げ、よりよい人生を送ることができる資質・能力の育成を重視しています。それが、次にあげる「三つの資質・能力」です。

- ①何を理解しているか、何ができるか【生きて働く「知識・技能」の習得】
- ②理解していること・できることをどう使うか【未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」の育成】
- ③どのように社会・世界と関わり、よりよい人生をおくるか【学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」の涵養】
(中央教育審議会「答申」から)

本校の教育活動においては、先日行われた学校説明会にて「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」の視点で教育活動の成果と課題について説明をいたしました。本校の子どもたちは、知識・技能の定着について成果をあげてきています。今後は、身についた知識・技能を各教科の学習はもとより生活の中でよりよく活用できるようにしたいと考えています。また、子ども自身が身近な生活から問題を見つけ、その解決に向けて計画をたて、実行できるようにしたいと思います。そして、子ども同士が協働的によりよく課題を解決できるように、新学習指導要領が目指しているこの三つの資質・能力の育成に向けて教育活動を進めていきます。

3月17日には、89名の6年生が未来の自分への夢と希望をもって恩田小学校を巣立っていきます。この3月は自分の成長を支えてくださった方への感謝の気持ちをもちながら、卒業までの日々を過ごしてほしいと願っています。

平成29年度も子どもたちを温かく見守っていただいた地域の皆様、そして、保護者の皆様に改めて感謝申し上げます。今後とも保護者・地域の皆様のご支援とご協力をよろしくお願い申し上げます。

平成30年度より、5・6年生の「外国語活動」の時数の増加に伴い5・6年生の時間割を月・火・木・金曜日を6校時、水曜日を5校時とします。月によっては予定の変更がありますので、詳細は毎月発行される学年だより等で時間割の確認をお願いいたします。1～4年生までは時間割の変更はありません。